

# 特集

## 2022 年度中部支部会報告

### 「天文教育普及 with COVID-19 へ新展開～感染症禍から “新しい日常”への“回帰”～」

船越 浩海（生涯学習センターハートピア安八・天文台）  
大西浩次（国立長野高専）、内山秀樹（静岡大学）、沢武文（元愛知教育大学）、  
前田昌志（三重大学教育学部付属小学校）、  
亀谷光（福井市自然史博物館分館セーレンプラネット）

#### 1. はじめに

2022年5月、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）対策については、法律に基づく感染症対策から個人の選択を尊重した自発した取り組みへと移行した。2020年初春から約3年間、天体観望会、天文教室、天文講演会などほぼすべての対面活動が大幅に制限され、中止や定員の大幅減少など、天文教育普及の場も大きな影響を受けた。

この感染症禍から抜け出すこの時期に、今後の天文教育普及の第一歩として、対面宿泊での中部支部会を行うことができた。

#### 2. 開催にあたり

新型コロナウイルス感染症禍において、オンライン会議システムを利用した普及機会の展開、電視観望の普及など、対面制限や感染予防から促進された一方、顔が見える対面でのコミュニケーションや眼視観望の重要性などを改めて感じる機会になった。

これからの感染症禍明けへの第一歩を踏み出すこの機に、「天文教育普及 with COVID-19 へ新展開～感染症禍から“新しい日常”への“回帰”～」をテーマとし、3年間で振り返り今後の道を模索する意味を込めて、今回の開催となった。

■ 日 時：2023年5月27日（土）13:00 から28日（日）12:30まで（延べ26名参加）

■ 開催地：福井市ハピリンホール、福井市自然史博物館分館（セーレンプラネット）

#### 3. プログラム概要

【5月27日（土）】参加者23名

- テーマセッション：5件の口頭発表  
（このうち1件は、参加の都合で28日発表）
- 招待講演：「電視観望の普及と観望会などの提案」演者：アマチュア天文家 Sam さん  
電視観望の技術的解説を天文の普及に絡めて、電視観望の歴史、観望会での活用まで、具体的な事例を合わせて講演された。

#### ● プラネタリウム番組・施設見学

福井市自然史博物館分館（セーレンプラネット）にて、プラネタリウム番組「星空の時間」の鑑賞、プラネタリウム施設、バックヤード、展示室の見学を行った。

#### ● 展示：1件（開催期間中）

【5月28日（日）】参加者23名

- 一般セッション：3件の口頭発表
- 今後の支部会活動について

2024年度に予定されている天教年会（福井大会）に向けての討議がなされた。

#### 3.1 招待講演

アマチュア天文家 Sam さんによる「電視観望の普及と観望会などの提案」と題した講演をいただいた。

電視観望の起源、機器の歴史など電子観望の黎明期を築いた本人ならではの解説に始まり、終始興味深い内容であった。

電視観望に必要な、お勧めの機器構成、代表的なキャプチャーソフトとその使用例など、

技術的解説を分かりやすく話され、天文の普及に即した具体的な提言、今後の電視観望との付き合い方のヒントも多く示していただいた。観望会などでの電視観望の活用の仕方、見せ方のテクニック等については、実践者ならではの具体的な提示もなされた。

### 3.2 テーマ発表

- ①「一宮高校地学部のコロナ禍3年間」  
高村裕三朗（愛知県立一宮高等学校）
- ②「観望会での電視と眼視の共存」  
船越浩海（生涯学習センターハートピア安八天文台）
- ③「公民館出張観望会の実践報告」  
須藤未来（福井市自然史博物館分館（セーレンプラネット））
- ④「地域コミュニティでのコロナ禍における天文教育普及事業の実施事例」  
堤美奈
- ⑤「ポストコロナ時代における教員養成課程の天文授業の新展開と実践」  
前田昌志（三重大学教育学部附属小学校）

### 3.3 一般発表

- ①「市民科学と星空環境保護（光害対策）」  
大西浩次（国立長野高専）
- ②「乳幼児向けのプラネタリウム実施報告」  
山口菜摘（福井市自然史博物館分館（セーレンプラネット））
- ③「8年目、セーレンプラネット」  
長谷川哲郎（福井市自然史博物館分館（セーレンプラネット））

### 3.4 今後の支部会活動について

2024年度天教年会（福井大会）に向けて今後の準備スケジュール概要が説明され、会期（2024年8月19日（月）～21日（水））、場所（福井市自然史博物館分館（セーレンプラネット））と確認した。

特に早めの課題として、テーマの決定、招待講演者の推薦、実行委員体制について、論議がなされた。

テーマ：福井ならではの特色を盛り込むことも考慮されるとよいといった意見が出され、星空保全、宙ツーリズム、地域振興、生涯教育、（学校教育と社会）、小型人工衛星などのキーワードが提示された。

開催形態：ハイブリットを積極的に検討することで了解された。

実行委員体制：開催地の会員による実行委員長のほか、メンバー候補の提案などが交わされ、具体的には実行委員長と会計係の立候補もあった。

### 4. おわりに

3年ぶりの対面開催は、対面での情報交換、討議の相互交流等の良さを再確認できた。一方、オンライン開催のメリットにも気づかされたコロナ禍であった。双方考慮しながら来年の年会に向けて取り組んでいきたい。

尚、各口頭発表については、本冊子に寄稿されているので、そちらをご覧ください。



船越 浩海

hiromi.mp9842@gmail.com

大西浩次  
内山秀樹  
沢 武文  
前田昌志  
亀谷 光